

採用年度	平成 26 年度
お名前	管 析
派遣期間	平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日
領域/分科/細目	医歯薬学／内科系臨床医学／皮膚科学
派遣国	米国
受入機関名	Duke University Medical Center
受入機関部局名	Department of Immunology
研究概要	人間の末梢血の B 細胞を ex vivo で増殖させる培養システムの構築を目指していました。具体的には feeder 細胞と呼ばれる支持細胞を用いて B 細胞の増殖を促します。1 つの B 細胞が 10 日間で約 30000 倍に増殖します。IL-10 産生の制御性 B 細胞を増殖させて、自己免疫疾患の治療の手段に用いることを最終目標にしています。
派遣前の準備についてのアドバイス	DS-2019 を作成してもらおうと派遣開始の半年前くらいに留学先にメールしましたが、実際に動き出したのはその 2 ヶ月後でした。やり取りが始まれば意外とスムーズに進み、1 ヶ月後には DS-2019 が手元に届きましたし、さらにその 1 ヶ月後にはビザが手に入りました。大学や部局による違いもあるとは思いますが、あまり焦らなくてもいいようです。その他、生活のセットアップや保険に関しましては門川俊明編著の「研究留学術」という本が大変役に立ちました。その本の中にも書いてありますが、インターネットで円→ドルに両替することのできる銀行口座は必須だと思います。あと自分が困ったこととして、アメリカでは日本語を打てるキーボードを有したパソコンを購入するのは困難ですのでパソコンが古くなってきている方は留学前に買い換えることをお勧めします。
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	私は健康保険を日本の海外旅行保険のものに加入しておりましたが、現地の病院やクリニックでは使用できないことが多く全額支払ってから後日保険会社による払い戻しを受けておりました。海外旅行保険では女性の妊娠や子供のワクチンがカバーされませんが、現地の保険では通常いずれもカバーされますので現地の保険に加入することをお勧めします。医療費等の保険料は例外的に受給することができるのと海外特別研究員の手引にも書いてありますので、健康保険に関して心配なことがある方は留学先のボスに一度相談してみるとよいのではないかと思います。その他、アメリカでは常識であることが日本から来た我々には常識ではないことが多く、その度にストレスを感じたりよけいな出費になったりしますのでアメリカ人でも日本人でも構いませんので友達を作って色々情報交換をするとよいと思います。
派遣先での生活の様子	仕事は 9 時-18 時、土日は必要があれば数時間行くというスタイルです。日本にいた時と比較して家族と過ごせる時間は格段に増えました。住宅は 2 ベッドルーム、日本で言うところの 100 平米の 2LDK に住んでおりますが、家賃相場は 1000-1200 ドルです。マンハッタンで同様の広さですと 4000 ドル以上するみたいですので田舎でよかったですと思いました。コンビニはないですが、24 時間の大型スーパーマーケットがありますので生活に不自由は感じません。
海外特別研究員に採用されて良かったこと	まずは金銭的に助けられたと思います。そして、留学先のラボからの給料が発生しないことで当然ボスも喜んでおりましたし、それだけで自分に対する印象も良かったように思います。グラントや研究資金を得ることはアメリカでも大変で、自分でお金を持って来られる研究者は一目置かれるようです。ラボに加入してからなかなか結果が出なくて辛い時期もありましたが、学振から奨学金を頂いていることで何とか結果を出して日本の今後の研究発展に寄与したいというモチベーションを自分の中で維持できたと思います。2 年間、本当にありがとうございました。